

旧盆行事 特徴や変遷紹介



⑤旧盆の由来などを講演する稲福政斉さん⑥旧盆行事の変遷などを学んだ講演会＝8月31日、うるま市中央図書館

【うるま】放送大学公開講演会「世代を超えて学び合う沖縄の行事」（主催・放送大学沖縄学習センター、共催・うるま市中央図書館）が8月31日、同市中央図書館であった。沖縄の伝統行事に詳しい同センター非常勤講師の稲福政斉さんが「盆の行事と供え物」と題し講話。日本本土、台湾、沖縄各地のお盆行事などの写真を紹介し、比較しながら沖縄の旧盆行事の特徴を説明した。

（仲地清通信員）

うるま 放送大学稲福さん講演

うるま市を中心に近隣市町村から60人が参加した。盆は旧暦7月に祖霊を迎え、沖縄本島ではシチグワチ、宮古ではストウガツ（いずれも「7月」の意味）、八重山ではソーロン（精霊）と呼ばれる。

稲福さんは、旧盆の行事は旧七夕（旧暦7月7日）の墓掃除から始まるとし、「無事帰れるよう家に続く道の掃除も大切」と強調した。

供え物に関しては「秋の収穫祭りも兼ねていたので、家庭で採れた果物を飾っていた」と説明。サトウキビも短く切って飾っていたが、皮をむいて食べる子どもたちが少なくなり、キジの供え物も少なくなったと、時代の変遷を話した。

集落によってはエイサー、道ジュネーなどで先祖と一緒についできた邪気を払う。綱引きのたいまつで邪気を追い出す行事もあると紹介した。

同市の石川芳枝さん（75）は「分かっているつもりで旧盆のしきたりを改めて学べ良かった。今後は心を込めてご先祖さまを迎えたい」と感想を語った。

「家に続く道の掃除も大切」